

海宝寺のお十夜

中島考二



海宝寺

須賀の海宝寺（常圓山智光院海宝寺 浄土宗 平塚市幸町26-21）では、毎年10月15日に“海宝寺のお十夜”と親しまれている「十夜会」が、江戸時代の初期、寛永元年（1624）頃より現在まで400年近く大切に継承されています。室町時代の永享年間に、報恩感謝、先祖供養の行事として京都で始められ、その後鎌倉に伝わり多くの寺々で盛んに行われてきたとされる此の念仏行事は、どうしたわけか戦後急速におとろえてしまったといわれているようで、こういった風潮の中での海宝寺のお十夜はとても貴重な行事であると思われます。

お十夜の当日、いつもは静寂な境内も露店が並び昼頃から仲々の賑わいを呈します。

境内の本堂正面には角塔婆の「回向柱^{えこうぼしら}」が立てられ、その上部に結び付けられた白木綿の布が本堂の内へと伸びています。本尊阿弥陀如来の御手からは五色の紐が内陣^{げじん}を通過して外陣で白木綿の布と結ばれています。これは「善の綱」と呼ばれており参詣者は「回向柱」に掌をあてて本尊阿弥陀如来との結縁^{けちえん}をはたします。

午後2時、吉永流詠唱講中の「御詠歌」でお十夜が始まり、「施餓鬼法要」へと進み、次いで4時半からの「諷誦文回向^{ふしよもんえこう}」に移ります。諷誦とは節をつけて経文を暗唱することで今では法要の趣意文を読むこと又はその文のことをいいます。海宝寺のお十夜が“諷誦文お十夜”といわれるのはこの回向があるからです。諷誦をお願いする人（施主）は諷誦をうける亡き人の家族であったり、親戚・友人知人であったり様々ですが、施主ごとに諷誦を唱える人（導師）の前に進み出て焼香合掌して諷誦文を聞き乍ら導師と一体となって回向します。回向は午後8時から始まる「十夜法要」まで続きますがこの間客殿ではお十夜コンサートが開かれるなど現代に合せた催しも行われます。

午後8時から始まる「十夜法要」は仏の大慈悲に感謝する法要でありまして、海宝寺住職を導師として多くの僧侶により行われますがこの法要には檀家やその縁者などの家庭から募った子女達が「稚児」として参列し、美しい衣装・冠をつけ、甲斐々々しく本尊に供物を捧げ荘重な法要に可愛い華を添えます。法要は導師僧侶稚児が本尊のまわりをめぐる「行道^{きょうどう}」のあと導師に和して全員でとなえる10遍の念仏で終わります。午後9時ごろです。

檀家以外の人でも諷誦文回向をお願いすることが出来ます。又諷誦文はあげなくても十夜法要に参列することも出来ます。忙しい日常を離れ400年の伝統行事に参列してみたいかですか。

海宝寺のお十夜は“相模の三大お十夜”の一つにあげられる有名なお十夜であります。

なお現在平塚市内の浄土宗寺院でお十夜が行われているのは海宝寺のほか中原の大松寺、下島の霊山寺、四之宮の大念寺の合わせて4ヶ寺であると聞いています。

平塚市文化振興基金にご協力を!!

この基金は、芸術文化事業の企画・実施、市民の創造的文化活動に対する支援、文化情報の収集・提供等の事業を目的に積み立てられています。

趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

今年度平塚市文化振興基金にご協力いただいた方（敬称略）（平成18年4月から平成18年7月まで）

■湘南ひらつか第九を支える会（H18.4）



発行//平塚市(文化行政推進室)

〒254-0045 平塚市見附町15-1

<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/>

●お問い合わせ及び寄付金のお申し込み

施設利用に関すること TEL 0463-32-2235

事業に関すること(平塚市文化財団) TEL 0463-32-2237



FAX 0463-31-6466